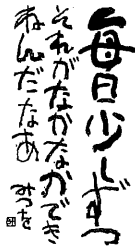


さくら第557号

# さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬 重雄  
春江町境 17-7・Tel.51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

令和8年 5月



## 『あきらめない心』

何かを始めても、すぐに飽きてしまい、長続きしないことを三日坊主と言います。

何事も続けていくためには粘り強さと継続力が必要です。粘り強さは質的、継続力は量的という違いがあります。

三日坊主にならないためにいろいろな手立てがあります。まずは明確な目標を設定し、なぜそれを続けたいのか、具体的な目標を決めます。そして小さな簡単なことから始めます。

それを習慣化し、決まったときに決まったことをするような規則的なことを決めておきます。更に結果を記録し見えるようにすることです。

飽きずに継続するための名言があります。

『何かに挑戦したら、確実に報われるものであれば、誰でも挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションを持って継続しているのは非常に大変なことであり、私はそれこそが才能だと思っている』羽生善治将棋名人。『小さいことを重ねることがとんでもないところに行くただ1つ道だと感じている』イチロー選手。『小さな努力の積み重ねが歴史をつくっていくんだよ』ドラえもん。『私が目標を達成できた秘訣を。それはね絶対に諦めないことだよ』ルイ・パスツール。

第432回全珠連段位暗算検定試験が3月22日に福井県珠算会館で施行され、高志高校1年の島田常行君が十段に合格しました。

福井市清水東小学4年生の1月検定で準六段にいきなり合格。七段は小学5年生。八段は4回目の受験で小学5年生で合格。

全珠連段位暗算の十段は3種目とも200点満点中190点で合格です。40題中ミスは2題

までであり、九段までの3回連続受験の中での最高得点が生きる特任制度はなく、その回数のみでの審査となります。

九段は3回目の受験の高志中1年で合格。それから十段合格までの長いなが～い受験が始まります。9回目の高志中3年生では福井県支部審査では乗暗算190点、除暗算195点、見取暗算195点で通過しましたが、本部審査で数字不明瞭ではねられ不合格でした。

13回目では乗暗算と見取暗算で1題のミスとなり、15回目と16回目では乗暗算が1題ずつの失点。18回目の挑戦で乗暗算195点、除暗算190点、見取暗算190点で合格達成。

10回受験で九段まで合格したのが、十段には18回の受験を要しました。諦めない心で目標を達成した島田常行君に大きな拍手です。そこで、今までの思いを書いてもらいました。

### 「九段に合格するまでは」

まだ小学生だったということもあり先生に教わったことや真似をする脳の適応力が高かったのではないかと思います。つまりやればやるだけ脳が勝手に暗算脳力を上げてくれるということ。そろばん塾に行ける回数が多かったのも影響しています。

### 「十段になるまで」

中学生になってから十段を目指し始めたので脳が勝手に暗算脳力を上げてくれなかったのです。そこで技術、テクニックに頼ることが多くなったような気がします。見取暗算を4桁で一気に計算する。答えを書きながら次の問題を見るなどです。それと試験時には「受からなきゃ」というプレッシャーと、「受かったらみんなから褒められる!!」という興奮的なものがあって、ずっと手が震えていました。それは18回までずっとでした。フラッシュ暗算や読上暗算など直接的でなく、間接的練習にすることが大事です。この長～い間支えてくれた(特に受験料)親に感謝しています。

■3月段位検定試験は全国で5,613名が受験し2,382名が合格し合格率は42%。十段合格は22名で合格率は0.4%でした。

やせ蛙がえる 負けるなま 一茶いっさ これにあり

季語きご Ⅱ やせ蛙がえる (夏)なつ

小林一茶こばやし いっさ

やせ蛙がえる よ、負けるなま 一茶いっさ はここで応援おうえん しているぞ。